

# 市民の安全を守る

## 鳥取市交通安全指導員会

### 92人の確かなまなざし

「この場所になりますわいな」とやさしい笑顔で語るのは、  
松村治美さん（副会長・湖山町西一丁目 六十九歳）。

松村さんは、毎朝七時三十分から八時までの間、交通量の激しい湖山町西一丁目の大寺屋交差点で、地域の安全のために活躍する交通安全指導員だ。

松村さんたち交通安全指導員（鳥取市交通安全指導員会・会長霜田稔さん）は、各



副会長の松村さん

小学校区に二〜五人いて市内全域で九十二人。太陽が照りつける夏の暑い日、雪が降り

手もかじかむ冬の寒い日、雨や風が吹きすさぶ台風の日、どんな日も、毎日朝早くから横断歩道で黄色い旗を片手に、地域の子どもたちや住民のみなさんを交通事故から守り続けている。

### 職場の理解と協力

交通安全指導員は、地区の自治会長の推薦を受け市から任命されるが、その活動はボランティアといつてよい。

ほとんどの人が仕事をしながら活動しており、子どもたちの通学時間に合わせて交通安全指導をしているため、中には会社の出勤時刻に合わない会員もいる。

「職場の理解が得られないこともあるんですよ」と松村



研修も真剣そのもの

さんはつぶやく。

松村さんは、この活動を理解してくれる上司に恵まれたおかげで、長い間交通安全指導員を続けることができたという。「当時勤務していた会社のおかげ。感謝しています」と当時をふりかえった。

### 地域の住民が無事故で

特に冬場は、周りの交通状況の心配りに息が抜けない。

「寒い日は緊張します。地面が凍っている日は車も急に止まれません。私の誤った指示で交通事故があつてはいけませんのです」と松村さん。この時期だけは、握る横断旗にも自然と力がこもる。

「これからも事故が無いよ

う指導員を続けていきます。継続は力なりです」と言う松村さんの思いはただ一つ、地域住民が無事故で安心して通行できることだ。

交通安全指導員のみなさんの地道な活動が、地域をはじめ市全体の交通事故を防いでいることに気付いている人は少ないかもしれない。

しかし、「継続は力なり」の言葉のとおり、長きにわたり地域住民を交通事故から守っているみなさんの活動と、この日も、子どもたちと笑顔で交わす「おはよう」の一言に、交通安全指導員の優しさを感じ、感謝の思いでいっぱいになった。



「気をつけていってらっしゃい」